

『いつも主とともに』 使徒の働き2章23～38節 2018.5.6(聖日礼拝説教より)

『…人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。』
ヨハネの福音書15章5節

聖霊が注がれる時、人として大切なことを悟らされ、教会の土台(悔い改めと信仰)がすえられる！

❶悔改め(罪の意識・弱さの自覚)使徒 2:23～38…『その方(聖霊)が来ると、罪につき、義につき、さばきについて、世にその誤りを認めさせます(ヨハネ 16:8)』とのイエス様の言葉通り、弟子たち一人一人の上に聖霊が臨み、ペテロが説教した時、人々は心を刺され、「私たちはどうしたら良いのか」と問うた。ペテロは、『悔改めなさい。罪を赦していただくために…(2:38)』と勧めた！「今や主とも、キリストともされたこのイエスを、あなたがたが十字架につけたのです(2:36)」と告げられた時、ユダヤ人たちは聖霊によって、どなたが神で、何が罪かを示されて、回心した。

❷いつもわたしのもとに来て、いつも飲んでいなさい！ヨハネ 7:37…クリスチャンにとって、あの歴史上のイエスこそが神であり、この方によって罪とその結果である3つの死(肉体の死、霊的な死、永遠の死)から救われ、主に導かれて生きる者とされることは常識！しかし残念なことに、その常識に生き続けることが、実は難しい！常に主に信頼し、いつも聖霊に聴従する者となるための秘訣は、主の招きの言葉にある！「だれでも渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい(ヨハネ 7:37)」！自分の魂の渇き・弱さに気づいた人こそ主の招きに応え、「主よ、私は、どうしたら良いのでしょうか？その水をください」と素直に求める！その時、聖霊は、あなたの心の奥底から、あなたを生かす水、誰かを生かす水を溢れさせてくださる！「主がくださる水を飲む」とは主との『関係』！日々聖書を開いて御声を聴き、いつも御顔を仰いで祈ること！神の子にされた後、同じ過ちを繰り返さない保証は、どこにある？聖霊が、『ひとりひとりの上にとどまった(使徒 2:3)』の、「とどまる」は、「住む、座る、王座に着く」の意。罪を悔い改め、主を信じるとは、自分がふんぞり返って座っていた心の王座を、聖霊様に明け渡すこと！その時はじめて私たちは、世の悪と罪に打ち勝つことができる！

★私たちはイエス様から離れては何もできない(ヨハネ 15:5)。ご聖霊は、そのことに気づかせ、いつも主を仰ぐように導かれる。今週、毎日聖書を開いて御声を聴き、弱さの中で主の強さを実感しよう！